

角野栄子さん 児童文学のノーベル賞 「国際アンデルセン賞」作家賞受賞!!

『新装版 魔女の宅急便』や『トンネルの森 1945』など重版決定!

2018年3月26日(月)現地時間14時30分、イタリアで開催中のボローニャブックフェア会場にてIBBY(国際児童図書評議会)の記者会見が行われ、2018年の国際アンデルセン賞・作家賞に『魔女の宅急便』の著者・角野栄子さんが選ばれました。

国際アンデルセン賞は、世界の児童図書の発展向上を目指して設立されたIBBYが主催する賞。子どもの本に長年貢献してきた作家の業績に対し2年ごとに贈られ、「児童文学のノーベル賞」と言われます。

作家賞は、日本人では1994年にまどみちおさん、2014年に上橋菜穂子さんが受賞。角野栄子さんは三人目の受賞となります。

この機会に、株式会社KADOKAWAは、『新装版 魔女の宅急便』や『トンネルの森 1945』をはじめ角野栄子さんの著書8作品15点を重版いたします。

IBBY(国際児童図書評議会)選考委員長 パトリシア・アルダナ氏の選評より

日本を代表する卓越した作家、角野栄子の作品には、言いつくせないほどの魅力と思いやりと情熱がある。角野が手がけた作品は、それがゆかいな絵本であれ、**魔女のキキ**が活躍するすばらしいシリーズであれ、あるいはまた、第二次世界大戦中に恐ろしい**トンネルの森**を通り抜けて学校へ通った勇敢な少女の物語であれ、いつでも驚きと魅力に満ち、読む者に力を与えてくれる。いつでも楽しく、いつでも人生を肯定してくれるのだ。(一部抜粋)



撮影:馬場わかな

■角野栄子(かどの・えいこ)

1935年東京深川生まれ。83歳。児童文学作家。『魔女の宅急便』『ナーダという名の少女』など、数多くの作品を生み出してきた。『魔女の宅急便』は数々のメディアに描かれ、『トンネルの森 1945』は著者の戦争体験を元に描かれ、評価が高い。サンケイ児童出版文化賞、路傍の石文学賞、旺文社児童文学賞、野間児童文芸賞、小学館文学賞など受賞多数。紫綬褒章に続き、2014年旭日小綬章受賞。著作は400点近くあり、今も精力的に執筆活動を続ける。

■KADOKAWAから刊行している主な作品(刊行年)

◎角川文庫

『新装版 魔女の宅急便』(1)～(6)
(いずれも2015年)

『アイとサムスの街』(2014年)

『ズボン船長さんの話』(2014年)

『ナーダという名の少女』(2016年)

◎角川つばさ文庫

『ごちそうびっくり箱』(2014年)

『ラスト ラン』(2014年)

◎単行本

『トンネルの森 1945』(2015年)※詳細次頁

『角野栄子の毎日 いろいろ』(2017年)



「私たちの、あの時の記憶を残したい——」
『魔女の宅急便』の著者 角野栄子が、自らの戦争体験から描き下した、
惘然で、美しい、珠玉の物語。



トンネルの森 1945

著:角野栄子

発売日:2015年7月17日 定価1,200円(本体+税別)
頁数:200頁 体裁:四六判並製 装丁:名久井直子
書籍特設サイト

<http://shoten.kadokawa.co.jp/chosha/kadono/tonnerunomori1945/>

1945年。少女はたった一人で世界と戦っていた。

【あらすじ】

太平洋戦争さなか、幼くして母を亡くした9歳のイコは父の再婚相手になじめず、東京本郷の祖母の家で暮らしていた。

戦況悪化に伴い、父のすすめで新しい母とまだ生まれたばかりの弟の三人で、千葉の小さな村へ疎開することになる。

村の学校へ通うには、家のそばの暗くて大きな森を抜けていかななくてはならない。

「あの森で脱走兵が自殺したって」――

学校で噂になるが、ある夜森の奥からハーモニカの調べが流れてくる。

慣れない田舎の生活、他人行儀な母娘関係、悪化する食糧事情が、戦争が、イコたちを苛む。

そこへ、徴用された父のいる東京が大空襲で壊滅したという報せが届いて…。耐え難い孤独感と飢餓感
はトンネルの森のように覆いかぶさり、押しつぶされそうになった時、少女は兵隊の影を追いかけ森に入るが……。

【本件に関する報道関係からのお問合せ先】

株式会社KADOKAWA 文芸局

〒102-8078東京都千代田区富士見1-8-19